

中耳手術症例における経乳突的中頭蓋窩欠損再建法に関する検討

【概要】

真珠腫やコレステリン肉芽腫などの慢性中耳炎が進行すると中頭蓋窩の骨壁(中耳と側頭葉という大脳の部分を区切る骨壁)が破壊されてしまう場合があります。また、先天的に中頭蓋窩の骨欠損が存在する場合があります。中頭蓋窩の骨欠損を放置すると、その部分から脳組織が中耳に下垂し、髄液漏(脳脊髄液が漏れる)、髄膜炎などの原因になる場合があります。

そこで、中耳手術の際に中頭蓋窩の骨欠損をみとめ、手術中にその再建(作り直し)をおこなった方を対象として、過去の診療記録をもとに、施行した手術手技、術後成績、術後合併症などを調べ、適切な中頭蓋窩骨欠損部の再建法について検討する研究を行います。

【対象となる方】

2009年4月～2016年9月末までの間に当院で中耳手術を受けられ、手術中に中頭蓋窩骨欠損をみとめ、その再建を行った方を対象とします。

【ご協力をお願いする内容】

該当する患者様の診療情報(手術方法、術後成績、術後併発症の有無など)を確認するために、カルテを閲覧させていただきます。

【本研究の実施期間】

倫理委員会承認後から1年間

【研究対象の方への影響】

この研究は過去の診療記録を調べる研究ですので、対象となる患者さんへの直接的な影響・弊害はございません。

【プライバシーの保護】

本研究で得られた患者さんの診療情報は、個人情報すべてを削除し、第三者からはだれの情報かわからないデータ(匿名化データ)として使用します。よって、研究結果の発表において個々の患者さんが特定されるような情報が公開されることはありません。

【研究対象の方への説明】

本研究に関する質問や確認のご依頼や、ご自身のデータを使ってほしくないという場合は下記へご連絡をお願いします。

田附興風会医学研究所北野病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

試験担当医師:金井理絵、

<試験責任医師窓口>

田附興風会医学研究所北野病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来

電話 06-6312-8830(平日 9:00～16:54)